

**授業概要**

「古文書（こもんじょ）」とは、歴史書や日記、物語、律令などとは異なり、様々な命令書、手紙、帳簿などを指します。歴史書のような編者の意図が込められた編纂物ではなく、当時の人々が暮らし働いた現場の生のモノ（一次史資料）です。日本史を研究するに当たって、生の史資料の威力は計り知れません。

本授業では、古代から中世にかけての時期の古文書の様式・読解について講義し、日本史の基礎知識を身に付けていただきます。また、適宜指名して実際に書き下し・現代語訳を音読していただくと共に、授業の中でアクティブラーニングを実施します。実際に博物館など古文書を展示している施設に見学・調査に行き、活字や写真ではない、先人たちが残した生の史資料の現物を体感していただきます。

**授業計画**

第 1 回	ガイダンス
第 2 回	基礎的事項①（官職名、旧国名、干支、漢文基礎知識、史料と資料、など）
第 3 回	基礎的事項②（古文書について①）
第 4 回	基礎的事項③（古文書について②）
第 5 回	古文書見学に向けて①
第 6 回	古文書見学に向けて②
第 7 回	古文書見学に向けて③
第 8 回	古文書見学—日本史体感①—
第 9 回	見学を終えて①
第 10 回	古文書見学に向けて④
第 11 回	古文書見学に向けて⑤
第 12 回	古文書見学に向けて⑥
第 13 回	古文書見学—日本史体感②—
第 14 回	見学を終えて②
第 15 回	まとめ
第 16 回	期末テスト

**到達目標**

- ・古文書を実際に読解し、その内容を把握できる。
  - ・ほかの日本史関連の期末レポートを作成する際に、実際に史資料を利用して執筆できる。
- \*必ずしも手書きの古文書を自力で読めるようにならなくてもよい。

**履修上の注意**

- ・授業では、書き下し文・現代語訳も示すが、あくまで返り点など漢文の基礎知識が必要。
- ・博物館学芸員資格取得を目指している学生は受講を勧める。
- ・私語など厳禁。見学時期や回数は、受講者数や博物館などの展示状況、コロナ禍の状況などによって変更する場合あり。

**予習・復習**

- 【予習】必ず教科書の該当箇所を熟読しておくこと。
- 【復習】レジュメ・ノートを見直し、整理しておくこと。

**評価方法**

学期末に実施する試験と、毎回授業時のコメントペーパーで評価する。  
試験（70%）、授業態度（コメントペーパー含む）（30%）

**テキスト**

- ・教科書名：『古文書への招待』
  - ・著者名：日本古文書学会編
  - ・出版社名：勉誠出版
  - ・出版年（ISBN）：2021年 978-4-585-22277-4
- 参考書（任意）漢文・古文・日本史の辞典類。授業中に適宜紹介する。